雌雄同体のエゾバフンウニ

田嶋健一郎・富田恭司

礼文島と稚内市宗谷で雌雄同体のエゾバフンウニを1個体ずつ採集することができ，これらについて組織学的観察を行った。これらは2個体とも1個の生殖巣に雌性部分と雄性部分とが混在するが，前者が大半を占め後者をとりかこんでいた。礼文島で採集された個体の生殖巣は雌性部分，雄性部分とも成熟後期であったが，宗谷で採集された個体の雌性部分は回復期，雄性部分は成熟前期であった。これらは礼文島で 1,069個体のうち1個体，宗谷で 283個体のうち1個体見出された。

A 97　北水試報　22　1-5　1980

噴火湾沿岸伊達市におけるマコンブの生態，およびコンクリートブロック，割石によるコンブ礁造成 第Ⅰ報　マコンブの生態

船野　隆

マコンブの生態と個体群の量的変動に関わる要因を明らかにし，コンクリートブロック，割石によるコンブ礁の有効な造成方法を見出すために，1962—1970年まで伊達市北黄金，舟岡，長和，有珠（ポンウスハナ，トシラル，沖合の養殖施設）において実験研究をおこなった。第Ⅰ報では胞子体の生育段階に，用語を改めて適用し，これらに応じて出現期調査地，年度，基材の異なる個体群の生長と成熟，出現，減耗，補充，密度，現存量，着生面積，競合海藻について明らかにした。さらに資源量の変動要因を，生育段階に応じて個体群内とそれを取巻く環境に分けて考察した。

A 99　北水試報　22　17-77　1980

リシリコンブの成熟と胞子体発芽数の周年変動及び日周変動

新原義昭・名畑進一・松谷実・武井文雄

リシリコンブの生産量は年変動・地域変動が大きいので，その生産変動を解明する一環として，生産主群の由来を知るために利尻島御崎で子のう斑の形成，採集器を用いて発芽数の周年変動および日周変動を調査した。その結果，浅所に生育する胞子体はほとんど1年中，子のう斑を有すること，遊走子等の着生，発芽に秋から初冬と春との2群があること日周期性についてみると遊走子は夜間に放出される傾向がある，等が明らかになった。

A 98　北水試報　22　7-16　1980